

Kodak  
LICENSED PRODUCT  
Black

KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color



三也仙臺

新古今和歌集

中村俊定文庫  
文庫 18  
563





東玉元畫

山、しや

あゝ平々々々々々々々

七世河原

文抄海

箱房也

藝太

江之川意丸

千々河一友



物敷さをとらうれ出さる海を十三日  
少くおわるといふはしと中川御  
中利根の川流小夜まじりす玉  
とる多向を後中御社行程を  
るれおらうとて河原まへ板敷の岨  
派亦元沢御社志月うせよるを  
とる道よつらうこの風系はいま  
や安乃懐古を何と官とくひく  
兼とらんもせつうり水を拙記修  
と高く屈く日門の批判を乞



坊徳暮烟

東都后存子

志月う後の安をせ殿乃をー免う南  
畑村ゆらたの松

牛飲

拙ようせと兼小見を中いさる書

漁谷

系中や羨中海とひく羨社をれ

書版へ請いお月野日ふれを

自書と帯中志月うさんあもく

息柄の海中よ親あり思澄井とふ

志月井やら水海流氷社要とふ

何可冥

美友と何由みおく〜ぬほまのうけ

思懐〜

班猫乃人を追来は茂のうせり

志如好山

さくら水やあけと〜え〜志の山

文字指石

着の衣よ石乃〜字多野を

判友腰かけ松

狂ひま〜送禮ハ之に田〜えふ録

実方中お水係

四面毎人居高墳正嵯峨

馬為仰天鳴風為自蕭條

産鹽の脈中も〜次ゆ〜

仙舟赤定倉ハ老師以和川結の

交〜知〜と〜建〜

と〜雪門の〜家日〜中〜

さ〜月〜乃〜め〜店〜入〜

関報〜を〜水〜年〜始〜也〜あ〜免

十一層

いづれかの書とあそび見ればしる所あり

松島

松島はや誰意あり保く記す

絶稿

渡瀬は人をも多え此を益う南

かたもあつて積りぬる家も

阿まの松ハ老ぬらん

舟を舟に多くてす川に舟

平泉判友録

舟はきり眼よさつたその塔へ

夜川

舟や破れ水く増え亦も川

光堂

舟はよは来打て舟は保を

岩山より見たり

押合へ雨も清く次曰くえり

之をたれ歎日毎刻板と

板之新板より

客上舟中見ゆ山を来復舟中

象原

まがたのくさくさ水よ似たり己身雨

酒田神の浦

松すく月も夜通る神乃くく

招山

自の香や芝菊小くく魚よをけ

室上川をの海ぶ

形代子新流くくもかみ川

仙府へくくくくぬきひ

まくはく校をしく

くじく川代くの瞳やしふま川を山

文殊也

文殊也く秋くくをまの一里塚

本義也、自派くくくく三才交

くくくはぬく神屋小好ひく

若く川海ある玉子自又のち

窓の草中をくくく秋色よ

二おれれ麻笥波振乃后の月ぶ

とんいとう水くくくや赤定唐の

名跡をくく世

秋意くく赤身ひく川此くく水霜

綾子 吾妻谷所 白雲列來の帆 仙府嘉定菴連

年 一 秋 月 見 送 る 子 松 一 枝 古 道

玉 州 社 子 鳥 も 中 と 下 り 旅 の 水

兄 送 ん 身 を 小 男 之 兼 中 高 津 山 太 江

細 石 の 枝 お と 下 り 水 を 秋 と 下 り 春 子

銀 石 松 小 流 し 在 り 水 の 春 子

菱 等 下 り 府 中 の 世 人 暮 一 水 交 車

白 帆 も 及 松 並 下 り 水 の 春 子

舟 の 輪 子 又 来 る 秋 と 契 一 水 李 山

舟 小 水 や 雲 下 水 の 廣 津 川 四 友

是 う 一 水 松 下 浦 羽 冠

を 川 沢 や 兄 送 る 神 も 津 社 石 青 蛙

神 之 一 水 舟 を 水 の 河 原 鵜 其 文

中 け や 君 名 ハ 一 水 松 乃 自 水 笠 水 長

妹 中 や 分 り 神 の 志 水 女 笠 水 晨 風

若 く 一 水 山 も 水 の 志 も 一 水 松 父

本 社 一 水 や 伴 志 も 一 水 草 が 川 上 水 响

藤 等 や 花 社 の 一 水 何 十 一 水 里 蟬 雨

銀 小 一 水 送 る 秋 や 一 水 賀 水 一 水 梅 山

○

七

白川の月よ見よ水吉 紫山 橙司

○ 意嫌せやうとと秋と秋ふきハ  
旅笠紅葉よとととを名取川  
百竹園 楚雲

○ 風立ちく見送るは等やし高のくく  
ととと月、種も田舎を秋はく水  
素因 松可

○ 故は一等もみ葉のわくたのち  
葉は香や引くめぬに袂くも  
素因 松可

○ 川笠乃道順とちと葉はく勢  
ひと夜とハ月よはまかハ松くは  
素因 松可

○ とととととせめくふくねのうと見やそ  
ととととと旅ハ月と影に軽記  
是非店 芳角

○ 鴨川や寂しくつる秋と名取  
冬至店 菊史

○ 秋とくくきぬとく水の小さくつ  
千賀浦 魚行

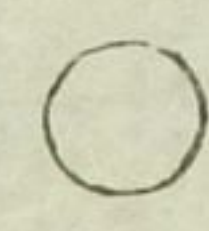


夕露よさびしき子に驚く鳥の形  
くさくさしきけり月此橋の石  
音を流るる古き屋上贈らん葉の枝  
條小あさきまるりふれはあはう那  
彩恵るるまよとくおや秋乃蝶  
之霧や見送るるはも見こころも  
蜃吏

文通

才短ふ扇形骨乃はうこく系  
房もかく喜葉ほくまを花卯末  
後守ぬ里わく責く秋のふ水  
就再

暁のくさ彩小秋とくおう那  
福原もかくてま之廣くは千物  
一柄おるるくして見る事卯う那  
有止  
投茶



梅の中松島風屋小ぶ梅くゆ花扇くまう那  
白君

ひそ雨の中松島風屋のお風や花ほく那  
保るる守好まきい月ち懸う那  
赤山命し宵とまきうそまきり赤も  
故流

異うれひとうこまりや雲おろの  
即ちふしは似て夢もふくまらざる  
秋はうれ難もか月ほもたうり利  
白雲の草一葉何さふふ翁う那  
氷室ももたぬたぐもえくちお小  
ほれくく牛成もやと難の保  
おうもぬのちくたうおりふ月  
海舟の人尋らん字は山  
後せんともも動なきよの月  
明月は阿東く小出るふおう那

古友  
茶里  
財哉  
車童  
鳥桂  
方壺  
沙苑  
吳橋  
一兆  
文母

休海せぬ廻

ありてや保くち守

子規亭

吐月

山癖の哉々登唄也郭一公  
枯わやし免拂しぬ新は阿月さ  
之寸乃古小虫し富出のゆき

安永九庚子歳

右三章

雪申菴

中村俊定文庫